



GAMADASHIMON

益城の
がまだしもん!

—vol.16—

た なかつぎ お あきひと
田中次男さん・陽仁くん
(寺中)

町内最年少防災士 祖父と共に

二人で歩んだ 防災士資格取得への道

令和2年1月に設立した益城町防災士連絡協議会。令和4年9月末現在、96人の防災士が所属しています。同会へ新たに入会したのが、津森小6年で町内の最年少防災士・田中陽仁くんと、祖父の次男さんです。

寺中の区長さんから誘いを受け、県が実施する防災士養成講座「火の国ぼうさい塾」の受講を決定したという次男さん。「じいちゃんの話聞いて、自分も防災力を高めておきたいと思い、一緒に挑戦することにしました」と陽仁くんは話します。

コロナ禍で講座が延期になっていた間に新しい教本が届いたり、レポートが追加されましたが、互いに刺激をもらいながら、次男さんは令和3年11月、陽仁くんは令和4年8月に行われた試験に合格し、防災士の資格を取得しました。

自分を守り、誰かのために 防災士の知識を生かして

田中さん宅では、一人一つ非常時持ち出し袋を備えています。懐中電灯や軍手、衛生用品などに加え、陽仁くんのリュックサックには、好きなお菓子やトランプ、ウシのぬいぐるみなども入っています。こうした準備をするきっかけとなったのが、令和2年2月に津森小で行われた町の総合防災訓練。家族で参加し、参加賞の非常時持ち出し袋ももらったことで「地震もあつたし備えておかなければ」と思うようになったそうです。

「私は75歳なので、まずは『自助』。災害時、周りに迷惑を掛けないよう学んだことを生かしていきたいです。そして可能な限り、地域への呼びかけなど『共助』にも取り組めれば」と話す次男さんに続き、陽仁くんは夢を語ってくれました。

「防災士の知識を生かして、災害時も活躍できるお医者さんになりたいです」。

下段写真左から／日本防災士機構から届いた陽仁くんの認証状／陽仁くんの非常時持ち出し袋の中身／町防災士連絡協議会のベストを着用する2人

